

令和4年度「学校推薦型選抜Ⅰ」講評

1 小論文

(1) 方法

本年度の小論文課題では、新聞記事を課題文として提示し、子どものインターネットやゲームへの依存についての関心が高まるなか、自治体がスマートフォンやゲームの利用時間の目安を示すことに対する受験生の考えを問うた。

この課題は、課題文を読み、問題の背景や論点を理解した上で、自分の意見を論理的に表現する文章力を有しているかという観点から、本学のアドミッション・ポリシーに則り、広く社会の課題の探究と解決に、主体的に取り組む姿勢を持っているかを確認することを目的として作成された。

(2) 結果に関する評価

評価のポイントは、①課題文で提示された問題の背景を整理できているか、②自治体がスマートフォンやゲームの利用時間の目安を示すことについては賛否両論があることを踏まえた上で、この問題に対する自分の見解を論理的・説得的に説明できているか、③全体を通して一貫した論理展開となっているか、であった。

そのため、課題文から問題の背景や論点を読み取れていないもの、問題文の指示に対応した答えができていないもの、主張が不明確なもの、反対意見を考慮していないもの、主張を支える論拠が不十分なものは低い評価となった。また、段落の使い方等の構成力が不十分なもの、極端に字数が少ないもの、誤字脱字が多いものなど、文章の基本が守られていないものも低い評価となった。

一方、問題の背景や論点を正確に理解できているもの、反対意見を考慮しつつ自らの主張を明確かつ論理的に展開しているもの、自らの経験や知識に基づいて論拠を示しているもの、文章の構成がしっかり考えられているものは高い評価となった。

2 個人面接

(1) 方法

新型コロナウイルス感染症対策を十分に行い、消毒・換気を含めて1人約20分で面接を行った。評価の基準は次の3点であった。

① 表現する力

自己推薦書やアピール・ポイントの内容をわかりやすく表現しているか。

自分の考えを面接員の質問に応じて理解しやすい形で表現しているか。

② 面接の態度

相手の発言を真摯にきく態度であるか。

対話に参加しようとする姿勢であるか。

③ 適性や意欲

入学への真の意欲があるか。

「大学案内」などによってカリキュラムの内容を理解しているか。

(2) 結果に関する講評

上記の3つの基準を踏まえて評価をした。その結果、面接員のコメントは下記のようなものであった。

①「表現する力」に関するコメント

アピール・ポイントや自分の良さについて、自分の言葉を使って表現した生徒には高い評価が与えられた。また、将来の目標について具体的なビジョンを持っている生徒にも高い評価となる傾向にあった。将来のビジョンと本学での学びについて、カリキュラムに沿って一貫性かつ具体性のある説明が出来る生徒には高い評価となったが、カリキュラムについての理解が足りなかったり、一貫性や具体性に欠ける生徒には低い評価となる場合が多かった。受験生には、表層的な理解だけでなく、自分の将来のビジョンと関連して、具体的に自分の言葉で説明できるように期待する。

②「面接の態度」に関するコメント

面接において、緊張して受け答えがぎこちなくても、真摯な態度で対応すれば低い評価とはならない。落ち着いて、丁寧に受け答えるとともに、変則的な質問がなされても臨機応変な対応は評価される。また、踏み込んだ質問に対し、自分の言葉で回答できる態度は評価される。

③「適性や意欲」に関するコメント

最も重視される点は、本学へ入学したいという意欲が感じられることが重要であるが、それに見合うだけの本学への理解も求められる。アドミッション・ポリシー、カリキュラム、学びの特色（リベラル・アーツ教育など）について、また、学びたい科目やゼミ、教養課程（グローバル人材養成プログラムと現代教養科目群）と専門課程（言語・文化、メディア・コミュニケーション、国際政治経済という3専攻）などの理解は不可欠である。その知識不足が露呈するようでは、決して高い評価を受けられない。しかし、これらは暗記するだけの知識となつてはならず、これを十分理解した上で、自分の将来のビジョンにどう繋げるかについて表現できる受験生には高い評価が与えられた。また、入学後の本学での活動についても明確なビジョンを持っている方がより入学意欲が高いと評価されることが多い。受験生には、本学を十分に理解した上で、本学で自分がどのように成長したいか自分の言葉で意欲を伝えてほしい。